



おおばっこ

E-mail 510131@sch.ibk.ed.jp

Tel 029-269-2103 Fax 029-269-2159



最優秀賞 水戸市小中学校読書感想文コンクール

私にできること

4年生の作品

私は、『ポリぶくろ、一まい、すてた』というお話を読みました。この本をなぜ読んだかという、題名から、その後どうなったのか、とても気になったからです。ポリぶくろを一枚すてたことで、何が起こったのか知りたくなったからです。

本を読んでみると、その答えがわかりました。ポリぶくろを一枚捨てたことによって、やぎがポリぶくろを食べて死んでしまいました。そのことに、私は、とても悲しくなりました。また、かけがえのない命が、たった一枚のポリぶくろで失われることに、しょうげきを受けました。私にとってのポリぶくろは、買いものを入れたり、小物を入れたり、空気を入れて遊んだりする、楽しいことにつながる便利なものでした。そのポリぶくろが、命をうばうものになることに、怖いと感じました。そういえば、私の家で飼っている犬も、ポリぶくろで遊びます。もしも、食べてしまったらと思うと、怖いのです。

私は、この本から、自分のできること、守ること、こうなったらいいなと思うことをまとめてみようと思います。

一つ目の自分ができることについてです。できる限り、ゴミを出さないようにすることです。買いものとき、自分のエコバックを使うようにしたいです。また、なるべくゴミを出さないように、ごみの分別をしたいです。社会の授業で習ったことを思い出して、リサイクルの協力したいです。自分の出したゴミのリサイクルマークを確認して、いこうと思います。それと、ゴミにする前に、使いみちがないか考えるかもしれません。ポリぶくろが、すてきなバックに変わったように、すてきなものに変身するかもしれません。

二つ目の守ることは、絶対に、ポイ捨てしないことです。夏休みに行った海にも、車から見たすてきな山道にも、ゴミが捨てられていました。ゴミがあるだけで、心が傷つきました。三つ目は、こうなったらいいな、についてです。ゴミがゼロになればいいなと思います。生ごみは、土になり、リサイクルゴミはリサイクルされる。残りのゴミは、生活に必要なエネルギーや物に変わったら、自然を汚すこともなくなるし、命を守ることもできるので、すてきなだと思います。それに、リサイクルできないものをなるべく作らないようにすればいいなと思います。

おわりに、私が、この本から学んだことは、ゴミについて考える大切さです。アイサトが、ともだちとした行動は、ゴミをなくし、すてきなバックに変えました。それは、生活環境をきれいにし、動物の命を救っています。みんなが協力することで、大きな革命が起きました。きっと、私たちも、みんな考えて、協力することでできることがあると思います。まずは、家族に、この本の感想を話して、ゴミについて考える大切さを伝えたいと思います。

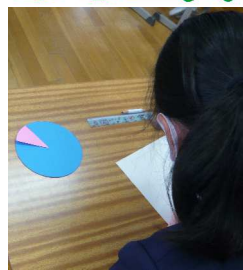
主体的な話し合い活動をめざして

道徳が「特別の教科」になり、教材をもとに考え、友達と議論する力が求められるようになりました。学級活動では、学級内の諸問題に気付き、自分たちで解決するプロセスが一層重要視されるようになりました。そのためには、自分の考えを持ち、友達と話し合っただけで練り上げたり、合意形成したりすることが大切です。話し合いの充実のために様々な工夫をしています。



紙コップで意思表示：「いいね」「同じ考え」「違う考え」

話し合いを深める工夫



心情を円盤で意思表示：「許せる」「許せない」



ICTで自分の意思表示・友達の意味確認